

1. 幼稚園の教育目標

子どもたちは、無限の未知なる可能性を秘めており、その可能性は幼児期の過ごし方で大きく左右される。本園は「生きる力」の基礎を育むことを大目標としている。生きる力の根源はやる気である。四季折々の子どもたちの体験活動を重視し、感動体験から湧き出るやる気（意欲）を発露させる保育を進める。

2. 令和元年度の重点

- ・ いきいきと活動し心豊かな子どもを育てる。
- ★ 考える子ども…………… 工夫し創り出して遊ぶ
- ★ 元気な子ども…………… 身体を存分に使って遊ぶ
- ★ 感じる子ども …………… 自然に親しんで遊ぶ
- ★ 仲よくする子ども…………… 思いやりをもってきまりを守って遊ぶ

3 評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	結 果	理 由
(1) 園の教育理念 教育方針	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本園の目指す方向を再確認しながら、教育・保育に努めた。 ・ 社会や地域の要請、園・子どもの実態に応じ教育理念・教育方針を設定し全教職員で共通理解する機会を持つことに努めた。 ・ 全教職員で全園児を育てることに力を注いだ。
(2) 教育課程・指導	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの実態に応じた保育が展開できるように、教育課程の再編成に努めた。また、それぞれの活動後の評価を重視し、次の活動に生かせるよう取り組むことができた。 ・ 活動中や活動後の振り返りを大切にすることに努め、子どもたちに小さな変化や伸びに気付かせ、自己肯定感の醸成を図った。 ・ 体験を通して学ぶことを重視し、四季折々の行事を展開してきたが、子どもの実態や、環境の変化に応じた柔軟な参加の方法を考慮していく必要がある。 ・ 発表会の音楽部門の独立は、年間の指導計画の中で、余裕を生み出すことができた。 ・ 絵画指導・英語指導・音楽指導では、各講師と連携した保育が展開でき、個の思いを重視する活動が展開できた。
(3) 保健管理	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園医による定期的な検診と月々の発育測定の実施及び日常の健康観察や疾病予防のための取り組み等、園児の健康管理に十分配慮することに努めた。 ・ 子どもたちの健康の維持増進のために、運動遊びやマラソン・縄跳びなど計画的に取り組み、運動への意識を高めることができた。 ・ 健康の大切さを子どもたちが理解しやすいように、全体・個別指導を織り交ぜ、年間を通してうがいと手洗いの徹底を図った。 ・ 各保育室に手洗い消毒器を新たに設置し、手洗いの充実に力を注いだ。が、新型コロナ観戦防止のための、マスクやアルコール消毒剤等の備蓄が十分でなかった。 ・ 伝染性の疾患を極力減少できるように、園医・保護者と連携を取り、事前の防衛対策に力を注いだ。
(4) 安全管理	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練や防犯訓練を通して、子どもの安全に対する意識の高揚を図った。また、教職員一人一人が子どもを守る意識と行動を高めることに努めた。 ・ 施設・設備の定期的な安全点検と保育室等の日常の安全点検の

		<p>徹底に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯カメラ・インターホン対応・入園証の着用化等、外部侵入者対策を保護者と共に実施した。 ・ 降園時に、保護者が確実に子どもを受け取れるよう、安全の確認を徹底した。 ・ 給食業者や保護者と連携を取りながらアレルギー対応に進んで取り組むことができた。
(5) 特別支援教育	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内で、こども一人ひとりを理解する研修会を深め、一人の子どもを多面的に理解できるように努めた。また、外部研修に積極的に参加し、日々の指導に生かすことができた。 ・ 配慮を要する個々の子どもの理解が進むよう、箕面市教委発達相談と連携を密にするとともに、保護者・教職員間で必要な情報提供を行い、連携・協力を図ることに努めた。 ・ 個別の支援計画・指導計画の作成に力を注ぎ、個に応じた指導ができるよう努めた。 ・ 小学校への滑らかな進級となるよう、箕面市教育委員会・家庭との連携を密にしながら要配慮児童に対応することができた。 ・ 外部研修に積極的に参加し、機関との連携の強化や研修の充実にも力を注いだ。
(6) 組織運営	5. 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ よりよい人材育成の視点から、適切な指導・人材配置を行い、チームとしての力を生かし組織全体の総合力を高めることができた。 ・ 園の課題や方針をもとに、幼児の実態に即した活動を積極的に保育に取り入れることができた。 ・ 担当するそれぞれの園務分掌や職務で、工夫や改善が図られ円滑な幼稚園運営につながった。 ・ 園務分掌において、経験の浅い教員が力を発揮できるよう工夫することで、業務の効率化を図ることができた。
(7) 研修	4. 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども理解・指導技術・指導法などの研修を定期的実施し子どもへの声かけを含めた対応の仕方や保護者対応について、相互に理解を深めることができた。 ・ 外部講師による実技研修を定期的実施し、指導に活かすことができた。 ・ 初任者研修・支援教育研修以外の外部研修へも積極的な参加を促し、園内での伝達講習に繋げた。 ・ 教材研究や教材準備の時間の確保に関して課題が残る。
(8) 情報提供	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の園だよりと毎週のミニだよりの発行で、園の様子や取り組みについて保護者に伝え、大事にしていきたいことや園の方針を理解していただくよう努めた。 ・ HPへの掲載や未就園時のイベント、園児募集の諸機会を通じて園の紹介を増やした。HP欄の改良が必要。 ・ 携帯メールを利用した保護者への連絡がほぼ確実にいえるようになった。
(9) PTAとの連携	5. 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA 役員・委員を中心に、充実し活動が展開できるように努めた。役員に経験者が残留したことでさらに活動が精選された。 ・ PTA の役員・委員が、幼稚園側の思いを全保護者に伝える役割を担うことも多かった。
(10) 子育て支援	5. 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 満2歳児を対象にした、週2回の特別保育を年間計画のもとに実施。2コースとも常に定員一杯の状態を実施することができ

		<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> 8未就園児を対象に、月1回園で「遊びにおいで」を開催し、親子で楽しんだり、子育てについての情報を提供したりの場を設け多くの参加者があった。
(11) 預かり保育	5. 0	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の要望を可能な限り受け入れ、毎日7時30分～18時30分まで実施。保育料の無償化に伴い水曜日と長期休業日、の受け入れを心配したが、料金の改定等で兆世が図られた。 預かり保育の中身を吟味し、子どもが課題をもって取り組む場を設定することに努めた異年齢児の交流の場として位置づけられている。
(12) 教育環境整備	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの安全と使いやすさの両面を常に意識しながら、施設設備の整備に心がけた。暑さ対策の遮光ネットの活用にも努めた。 西館園舎屋上及び壁面の防水工事を行うとともに、各保育室の整備・美化に努めた。 エコ改修事業として遊戯室のエアコンを入れ替え、よりよい環境を提供することができた。 花壇・玄関前の植物栽培に力を注ぎ、四季折々の草花が鑑賞できるように努めた。 子どもたちは、菜園で育てたジャガイモやさつまいもの収穫を楽しむことができた。また、トマトやキュウリなどの野菜の育ち方を身近に観察することができた。

☆自己評価 (5:十分に達成 4:達成 3:おおむね達成 2:要努力 1:要一層努力)

4. 総合的な評価結果

- 本年度は、1年のまとめの大切な時期に、新型コロナ感染症による休園が続き、計画していた活動内容を変更することを余儀なくされたが、すべての活動の中で、子ども自らが活動を工夫しながら創っていく姿を求め、「考える子」を育むことに重点を据えて取り組んだ結果、活動的な子どもが育ってきている。
- 全教職員で全園児を育てるという共通意識のもと、子どもに対応することに努めたので、こども一人ひとりの思いを引き出すことができた。自分の思いをみんなの前で出せる子どもが増えてきている。
- 本園84年の伝統の中、四季折々の行事や、子どもの体験活動を重視しながら、新しい方向性を見据えた保育の展開に取り組むことができた。発表会を充実させるために、音楽部門を独立で実施したが、双方ともにレベルアップが図れた。
- 年間を通じて環境整備に努め、子どもたちが気持ちよく活動できる場づくりに取り組むことができた。
- 防災マニュアルの再検討とともに、地震を想定した避難訓練を重視し、万一の災害に備えた。また、警察官による防犯訓練や防犯カメラの設置等外部侵入対策を強化した。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育課程・指導	<ul style="list-style-type: none"> 園内の研修を深め、一人ひとりの子どもがより主体的に動ける指導法と環境整備の充実が必要である。子どもが自分の思いが出せるよう導き、自己肯定感の育成に努める。 教育課程及び指導計画を見直し、園児の実態に応じた保育を展開していくことに努める。三大多行事のねらい及び進め方を再吟味し、保育内容のスリム化を図っていく。また、異年齢児との交流活動をより活性化していく必要がある。 幼少連携及び地域連携を深める保育のあり方について探りながら実践してい

	<ul style="list-style-type: none"> く。 ・ 複数教員での指導、多方面から眺めた保育を深め、保育の充実に努める。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症に対する三密対策をはじめ、リモートの懇談会や集会の持ち方など検討し充実させる必要がある。 ・ あらゆる自然災害を想定した防災計画を確立するとともに、避難訓練を計画的に実施していく。災害に備えての水や食料、アルコールやマスクの備蓄を検討する。 ・ 外部からの侵入者に対する防犯対策を強化する。
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園に関する様々な情報の提供・幼稚園公開の実施・園だよりやPTA情報などについてさらに充実していく。HPの積極的な活用を図っていく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

<p>全 体 の ま と め</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員で全園児を育てていくという理念が浸透し、子ども一人ひとりへの丁寧な対応に努めていることがわかります。常に子どもを中心に据えた保育の展開を心掛けていることが認められます。今後も保護者地域からの信頼がさらに厚くなるよう取り組むことが望まれます。 ・ 保護者のアンケートや幼稚園の自己評価を通して、子どもが幼稚園生活を満喫する円滑な幼稚園運営が展開できていることが伺えます。 ・ 長年の歴史と伝統を大切にしながらも、目の前の保育に視点を当て、当たり前のことが当たり前に見える子どもを育てるよう、綿密な計画のもと、着実な園経営が進められています。 ・ 過去の伝統を生かしながら、三人行事の精選に取り組み成果を上げているが、発表会の音楽部門を分離させたのはよかったです。 	